

林 守 仁

(工学部 動力機械工学科)

名誉教授称号授与までの歩みに

一九七八年三月、東京大学大学院工学系研究科博士課程主題「高温における鉄鋼の機械的性質」の論文を以て、課程修了と同時に博士学位を取得。その後、関連論文で小林賞を受賞。一九八〇年に採択された国際学会の交換論文を発表するため、主催国である『聖書』の国、イスラエル（二千年間流浪を経て、一九四八年建国）へと旅立つた。

大学院修了同年から、キリスト者である松前重義先生が設立された東海大学に、三十四年間専任として勤務。「機械製作法」および「材料強度学」を中心に、学部・大学院・第二工学部の教育と研究に携わった。最後の一〇年間は、現代教養科目の「科学思想」をも担当。他に、学生サークルの「聖書研究会」は、三十二年間部長教員の立場で関わった。

科学思想の授業は、秩序ある大自然の真理（ロゴス、L

OGOS）を追求する試みであったが、履修者は時に二百名を超えた。この背景を推察すると、地球規模の過酷競争や、若者のエネルギーを使い捨てる雇用制度等、現代の生き難さを感じている学生達が、真の拠り所と、生き方を模索している心の要請ともいえる。大学のカリュキラムは、生活の術である技術伝達に加え、生きる基礎となる思想、方向性を示す必要性を感じる。

創立者が示した、「汝の希望を星につなげ」の星は、不变的な永遠の存在を示し、「あなたのパンを水の上に投げよ」とは、自分の利益のみに捉われず、他者をも顧みる生き方の転向を示唆している。また聖書でパンは、「十字架につけられ、死にて葬られ、陰府に下り、三日目に死人の内より甦られた」（ヨハネ一七・二二）、「いのちのパン」（ヨハネ六・三五）であるキリスト自身を表している。振り返ると、創立者との奇しき幾つかの接点もあつた。長野の祖母と親交があつた内村鑑三。家の故郷でもある熊本。人生という道を、深い愛の摂理で導かれた神に感謝を捧げ、人々へ謝意を示したい。